

研究・調査報告書

報告書番号	担当
42	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名（原題／訳）	
Alcohol drinking and colorectal cancer risk: an evaluation based on a systematic review of epidemiologic evidence among the Japanese population. 直腸結腸癌の危険因子としての飲酒:疫学的な証拠を系統的に再検討することによる日本人の評価	
執筆者	
Mizoue T, Tanaka K, Tsuji I, Wakai K, Nagata C, Otani T, Inoue M, Tsugane S; Research Group for the Development and Evaluation of Cancer Prevention Strategies in Japan.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Jpn J Clin Oncol. 2006 Sep;36(9):582-97. Epub 2006 Jul 26. Review.	
キーワード	
系統的な再検討、疫学、飲酒、直腸結腸癌、日本人	
要旨	
目的： 飲酒が直腸結腸癌の原因と関係があるかはいまだ明らかではない。西欧人に比べアルコール関連の病気によりかかりやすい可能性がある日本人集団を用いて、疫学的エビデンスを系統的にレビューし、この関係を検証した。	
方法： PubMed という医学文献検索エンジンに加え、用手的検索で補完して飲酒と直腸結腸癌の関連についての報告を検索した。相対危険度の大きさや、エビデンスレベルによる評価を行い、さらに癌研究国際機関で以前に動物実験や他の関連データを用いて評価された「生物学的なもつともらしさ」についても評価した。	
結果： 5つのコホート研究と 13 の患者対照研究を検証した。大規模コホート研究やいくつかの患者対象研究で、中等度～強度の飲酒と結腸癌の正の関連が認められた。一部では量一反応関係も見られた。飲酒による結腸癌や結腸直腸癌の相対危険度は 1 日当たり 46g 未満の中等度の飲酒者でも 1.4～1.8 倍に上昇していた。この飲酒量では、西欧の研究ではまだ飲酒による結腸癌の危険性は上昇しない段階である。直腸癌と飲酒との関係については結腸癌と飲酒ほど一致性が少なく、結腸癌に比べ関連性も小さかった。	
結論： 日本人において、飲酒すれば結腸直腸癌が恐らく増える（Probable）であろうと結論した、個別のエビデンスレベルとしては、結腸癌の危険性について恐らく増える（Probable），直腸癌について増える可能性がある（Possible）と評価した。	